



源氏文字綴

源氏文字綴

源氏文字綴



かく消く桐臺

ふ解下も見く

筆本ハ家

かく福よるく空

障や体くむく

音と音のふく

此の句はすきか
橘

花乃香ふ錦也

見之くし紅葉乃

咲風とくし

毛の首あはひけ

そらそら葉なる柳の

枝よきく霜を

もちりり里れ時を

酒の好まき同

み母びくか

ふめ石のき

の先の海邊

一 為 人 著 道 生

の 露 少 々 水 下

園 屋 々 然 々

志 々 々 々 念 々

々 々 々 々 々

々 々 々 松 風 々

物ものづくづくくくををしし爲爲

ままよよむむせせいい権権乃乃花花

のの心心のの露露ゆゆのの

いいももむむららああしし

女女子子ががかかけけけけ

ききののじじ玉玉首首ああらら

うたぐい春の

初喜は日なり

しるまゝは舞小

蝶はうきまの

たぐい其

たぐい考

夏やまも氷涼

菊火の香方の

風ふ吹くまの日

新日曇らぬ仍

幸ふも花も陰

けり花散る由

枝の柱を思はせ

と折梅のえぬ

白くやとぬり

藤の葉葉のれ

何となく梅を

葉も春の梅

本邦の風土

横濱の善悪

海軍省の

新島襄の

久松義典の

沖田清の

後志にのちの由

乃領もたぐき

遠きこゝ新

の月ふくま

向ふ兵部を

らふに極色

思ふはつゆの

中、平字治問の

し、姫はさる

し、
椎か

有不法の
総

角、
まゝなる

早瀬もふしの色

ふらふら生やあり

こたえ〜とんぼ

乃法のうらも暮ふ

少道ゆらけの

果を糖かきこいの

代儀兵
治初軍
權政清
重庶和

大長文
仁勇才
崇雄永
義德秀

國富民安
森多奉甚
帝允負位

只為太孝
想却美利
勇是仙仲

教 務 作
文 市 長
卷 与 年
濬 理 查

思 冲 得
语 议 津
岸 疏 截
濬 岩 右

福
祿
壽
禧
豐

宅
宇
架
梁

松
竹
茂
林

丹
頂
嘉
音

榮
菊
芳
園

為
宗
念
來

緘 漆 舛
績 漆 舛
績 漆 舛
績 漆 舛

角 力 定 脛
角 力 定 脛
角 力 定 脛
角 力 定 脛

漸 浪 桂
若 波 存
園 溪 廣
坂 流 端

香 直
海 鶴
百 傳
德 愈

就遠運

涸祿連

德袖中

駒着魚

脚作心

盲軟家

深周李

苗了爽

德 虎 統 鸞 齊

前 時 正 浮

玄 司 補 是

良 次 演 妙

義 芝 祖 序

德 介 乙 矣

射梅亭槐

小麻玉春

百荔已馬

丑世卯辰

葛桑秋秋

物網亦早

左邊門 右邊門

兵邊 乞來

右郎 次郎

三序 六序

十良 乞色

乞助 乞無

七十八十

六百八十

六十六十九

樣極極極

度版古交

平

十平

甲乙丙丁

戊己庚辛

壬癸

十二支

子丑寅卯

厚己年未

申酉戌亥

三才

天 地 人

三光

日 月 星

四方
東
西

南
北

四季
春
夏

秋
冬

四民
士
農

二
高

不色青黃

赤白黑

水木火

土金水

忠常仁義

礼智信

御領合村名

池尻組

中里 泥尻

小坂田 池上

上々村 上池上

下中 池守 和田

新集大塚

了見塚中江塚

下門上大塚

南川原

持田組

产出平产

態々管石系

肥塚箱田

大井柳田

佐管田門井

新富久介

下久介江川

種 塙 前 谷

作 間 組

崎 玉 渡 柳

利 田 野 村

上 廣 田 下 廣 田

尾 鼻 袋

境 板 榑 上

下 丑 前 所

的 用 大 产

上 榑 产

管 榑 组

长 榑 系 小 玉

小針
下新回

上物
下老本

酒加
下中象

酒
白開

小兒

法地
順降

下酒产首回

策根素名板

串作下彩白

砂心小松

岩流之小次加

素流羽生町

蘇井
加解_个法

川濟
酒類

日
安
神
戶

町
苦
思
古
井

白子
林
不
初
甚

三
門
侯
加
酒
町

久下

藤崎

多同寺

花崎

小溪

大桑

水

深

油

崎

常

高

柳

户崎

礼

将

馬肉志多見

阿良門道地

正能騎西町

牛重濤臺

西之若田若

上濟上今下

桂足境

関新田
小根

赤城
奇谷

市之隈
安養寺

郷地
益東

湾
泉
回
家

大間

糠田

箕田

小首

三丁西之三本

門西

定是上

小河原
俵
兼

日
回
首
和
田

長
鴻
大
聖

每
財
壽
活

男
活
江
東

石
塚
順
塚

矢
回
流
夜
下

上中象今井

四方寺系身

產 柿 泥

原 鴻 別 府

玉 井 西 城

終

女國屋

の
葎
東
の

枯
津
湖
子

ふぶきく浦心

とけくながく
年

ふく書つる
年

久杖國と大日

ふ子る百杖瑞

梅乃國と
年

カ那ノ人浮橋下

照ヤ女神男神

乃ヨリノ初

國如道ガ成補

海ノ大内心と至

中ノ法柱と定女

ふあふあふのふ

の海浪のせほ

何せなるもの

いふは初

ふあふあふ

外國のふ

や抄は乃國と

雅波とく日本

一に大漆此ふは

と虫織肉と

其れを

が代は産道坂の

の東志海山と
越る内外の神
垣や瑞籬と略

併かたの國併物
志麻尾法と
之の略や藤存

志はつり

杜若しり男

乃思ひと本

橋乃田次人

妙の湯谷

船敷の古池

田の草をきり

皮を人のし

くまの羽衣

の松も踏む

乃國字の系

まじりて

高根と潤物と作

ありき、何とせ

此國の名不取と

甲斐の國と後

ふし、り又作

是相控武藏の

國安房上総下

総海と江東

らけいひ日暮

立上り中り終

代常陸略

戸丸紀信東

冬之まじり日

分氏尊雄井の

心より見んぞ

貴妻あはれ

言ひと名付

ゆきあはれ

終ると合々々々々

國東海道と道

終ると合々々々々

終ると合々々々々

終ると合々々々々

終ると合々々々々

らふは漢子賤

家と作と撰

物とて復物

漢書に今世を

と大なる人の衆ひ

とては方小なる

浮油 倍濃油 乃

糸 太く 太く 肌

と じつ じつ あや

毛 ぬ 賤 ぐ ち す じ

と 糸 ぶら み せ 絹

と じつ じつ 野 下

聖澤與出相與

列とく古く是

一つ國こく有あり

よし小澤乃之

却し北きた南みなみ里

一し玉たまと今いま

七つ七海の海列

存わ布刈海士

う目物のみ志狭綱

物ら記素あも為

雲丹書玉章

見ゆら那越

前か賀能水也哉

中や哉後と作

波を向ひ合ふ

いしはるね奇

しひく丹

波の國徳丹

是中身は漆刷

合切戸入の橋立

日下一丸縁京小く

巻くりに云葉な

ころや但馬は因

懐の國は云丸

互互東北初年中

納言之永之世之安之

酒廣子浦春風

村面之聲里如心

古の人も今如く

中伯喜丸國出雲

乃玉の太社年と

と徳神集とせ

妹脊れ縁と徳と

縁と次と石

見と徳の國是

と加合ハケ玉山

陸道と申す也播

磨平人作備前

國備中備後安

藝園防長門下

の園と先く和路

乃伽れを商人が

物は棒や十数

盤は山湯石を

是ともや紀伊の

國ふと名取多

くん洞も及七

し甲小屋さ

紀和方此浦玉

津崎大町神又

津崎大町神又

志く女人意權

有子也阿波

津崎大町神又

土佐是と心國

いひくは能前

能後豊前其後

肥前北乃日白

大隅薩摩の至

意波と村馬丸

二ヶ國城玉の海

や初より西よ南

しむるは玉

九國其の中用

天皇は沙字

機七道と定

父我天皇皇武天皇

六拾六國のからん

や叔父龍子其

じし 恐多也

天海神世美の

罪の流るの我

力強くはたかぬ

子孫のしるし

如園のあなほ

在るまじり

龍泉乃落と清

長谷の御意

高井の鳴神の

小野神社の記

高井と守りし神

高井神の

高井神の

高井神の

本懐

人
の
心
を
知
る
に
は
心
を
知
る
に
は
心
を
知
る
に
は

安政四年丁巳春日

海生堂橋中一捨

花巻六十七番

風城堂書





卷本八十一

國鴻屋

子集

此女

附屬

